

いいまち、しまね。

日本神話の舞台であることから、「神々の国」と呼ばれる島根。しかし、島根に何があるのかあまり知らない方も多いのではないでしょうか？　本記事では、観光スポットやグルメを通して、島根の魅力を精一杯ご紹介します！　夏休みのお出かけスポットの候補のひとつとして考えてみてはいかがですか？（雛鳥）

京都からのアクセス

1．高速バス

京都駅 → 松江駅 / 出雲市駅　約6～8時間　片道約 5,000 円

2．電車

京都駅 →（新幹線）岡山駅 →（特急やくも）松江駅　約4～5時間　片道約 13,000 円

観光には車や自転車が便利！

出雲

神々が集まるスピリチュアルなスポットと言えば出雲！　出雲大社の周りには、多数のお店が並んでいて、グルメやショッピングも楽しめる。



いづもおおやしろ 出雲大社

国造りの神として知られる大国主大神（オオクニヌシノオオカミ）を祀り、縁結びのご利益があると名高い。参拝の際には、「二礼四拍手一礼」という特徴を持つ。加えて、全国の八百万の神が旧暦10月に出雲大社に集まることから、出雲地方ではその月を「神在月（かみありづき）」と呼び、神在祭（かみありさい）という神事が催される。

古事記の出雲神話 因幡（いなば）の白兎

うさぎが良縁を導く存在と言われる所以！



白兎は、隠岐から因幡に向かうため、サメを騙し背中を走って海を渡る。しかし最後に騙したことが露呈し、怒ったサメに皮を剥がれてしまう。兎は、神様たちに海水に浸かると良いと騙され、さらに体がひどく痛むように。そこに大国主神（オオクニヌシノカミ）が現れ、真水で体を洗い、蒲（がま）の花の上に寝転ぶよう言う。その通りにすると、兎はみるみるうちに元の毛並みに。兎を救った優しい大国主神は、八上比売（ヤカミヒメ）と結ばれる。

/Food!/

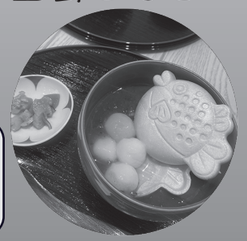


出雲そば

日本三大そばのひとつ。器が三段重ねになった割子そばが有名で、一段目に直接つゆをかけ、食べ終わったらつゆを次の段に移して食べる。

出雲ぜんざい

一説では、神在祭で振舞われた「神在餅（じんざいもち）」が訛って「ぜんざい」となり、京都に伝わったとされている。紅白の餅が入っている。



はみだしすてーじ　初めてらいふすてーじを読んでからもう30年。とうとうはみだします！
⇒30年！　今も読んでくださって嬉しいです。

（教　ねこねこ555）
（これからも読者カードお待ちしております！；編）



かの小泉八雲が「神々の国の首都」と呼んだことで知られる松江。
その静かで敬虔たる美しさに、誰もが心を奪われる。

松江

宍道湖（しんじこ）

日が沈む時間帯には、宍道湖一体が茜色に染まる絶景が楽しめる。穏やかな波と湖上に映る光の瞬きが、息を呑むような美しさを作り上げ、時間が永遠のように感じられる。

小泉八雲ゆかりの地 松江

小泉八雲（こいずみやくも）（1850~1904）

2025 年度後期 NHK 連続テレビ小説『ばけばけ』のモデル

英名：ラフカディオ・ハーン。1850年、現在のギリシャで生まれ、アイルランドで育つ。アメリカで記者や作家として活躍していたが、1890年に日本に来訪。日本人の生活様式や考え方に感銘を受け、多数の著作を執筆した。島根県尋常中学校に英語教師として赴任し、1890年８月から1891年11月までを松江で過ごす。松江の没落武士の娘・小泉セツと結婚後、1896年に日本に帰化し「小泉八雲」となる。最晩年の代表作『怪談』は、妻セツが集めてきた日本各地の怪談を基にして描かれた。



小泉八雲旧居





▼八雲が愛した庭には、松江城にあったとされるシャチホコが飾られている。

1891年６月、セツとともに松江城下のこの屋敷に移住し、熊本に赴くまでの５ヶ月間を過ごす。八雲は美しい日本の庭を愛で、植物や虫、動物に強い関心を抱いていた。旧居ではその庭や、八雲が使っていた机のレプリカ（※本物は小泉八雲記念館に収蔵）を見ることができる。

小泉八雲記念館

小泉八雲旧居の隣にあるよ！



八雲の私物や関連物の展示から、八雲の精神性や家族生活を読み解くことができる。館長は、八雲の曽孫であり民俗学者である小泉凡（こいずみぼん）さん。

筆者は、階段の踊り場に飾られている多数の家族写真に目を奪われた。明治時代当時、日本に帰化した外国人はもの珍しく、一風変わった家庭を築くことになった八雲。しかし飾られた写真からは、どこの家庭とも変わらぬ確かな愛の存在がひしひしと伝わってくる。

はみだしすてーじ　青切符が怖くて自転車をまだ買えていません
⇒自転車って超便利だけど、百万遍周辺はマナー違反多くて怖い。

（文・1　匿名希望）
（正しく乗れば切符は切られませんよ！；編）